

5年	書写	「用紙に合った文字の大きさ」 3時間	概要	個に応じた課題の明確化 振り返り	適○
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・書写体操の導入 書き始める前に、書写体操に取り組むことで指先や腕をほぐし、集中力を高めた状態で学習活動に入れるようにする。 ・ポイントの焦点化 課題設定の工夫として、指導者が、導入の段階で基準（お手本）の中で抑えたいポイントの焦点化し、そこから先は各児童が段階に応じて本時の中で身に着けたい力として課題設定をすることができるようにした。 ・試し書きと基準（お手本）の比較 試し書きと基準（お手本）を比較させ、自分の課題を明確にさせる。また、自分の課題を文章化させることで、単元学習の中で課題解決に向けて常に意識できるようにする。さらに、単元の終わりに試し書きとまとめ書きを比較することで、学習成果を視覚的に実感できるようにする。 ・自己評価と相互評価の一体化 個人の活動になりがちな書写指導の中で、他者と課題を伝え合って学び合うことにより、協働的な学びとして学習を深められるようにした。また、書いている様子を見合ったり、試し書きとまとめ書きを比較したりして、相互評価を行う。友達と互いの書字の見合いをする際には、書き始める前に、本時における自己の課題を伝え課題への意識をもった上で書くようにする。互いに書いているところを見合い具体的なアドバイスを送り合うことによって、単元目標への理解をより深められるようにした。また、指導者からの助言・賞賛だけでなく友達からの両面から学習を深められるようにした。 	児童の様子		<ul style="list-style-type: none"> ・導入の段階で書写体操を取り入れたことで、集中力が高まり、導入前よりも落ち着いて活動に入れるようになった。 ・初めに自分の書いた字に自己批評をし、めあてを立てたことで、その単元を通して何を学びたいのか意識できるようになった。 ・単元の導入で書く試し書きと単元の終わりで書くまとめ書きとを比較できたことによって、単元内での自己の変容が可視化され意欲的に取り組めるようになった。 ・友達同士でアドバイスを送り合うことで、協働的に学び合うことができていた。 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・上手な人と比べるのではなく、自分の中の課題意識をもちながら活動できていた。 		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・練習用の半紙など事前の準備物が必要。 ・時間配分に気を付けるようにする。 	